

# 助詞クライのアノテーションとそのガイドライン

本田優月・池美礼・上野聡子・小林宙夢・佐伯大地 (九州大学文学部)

上山あゆみ (九州大学大学院人文科学研究院)

## 1. はじめに

クライという語は、程度、あるいは低評価の意を表すとされるが、実際の用法は多岐にわたる。コーパスによる検索の有用性を高めるためには、これらの用法の違いがアノテーションによって適切に区別されていることが望ましい。そのためには、益岡・田窪(1992)、森田(2002)、落合(2017) 等で主張されてきたように、必要に応じて言語学的テストを行い、分類のガイドラインを作成することが必要である。本発表では、クライの様々な用法について分類ガイドラインを作成するにあたって、どのような困難な点があったかを明らかにした上で、実際にアノテーションを試み、その結果を述べる。

## 2. クライの分類

まずここで、提案するガイドラインを示し、それぞれの分類について、代表的な例文と分類の問題となりうる点を順に述べる。

①	同程度	「同じクライ」の形をとり、クライ前後の要素の程度が、同程度であることを表す。
②	疑問	疑問詞 (不定語) + クライの形をとり、明らかでない事柄の程度に対する疑問を表す。

③	概数	「数詞+クライ」の形をとり、おおよその数量を表す。 「約、おおよそ、だいたい」と共起可能。
④	時点の曖昧さ	対象の時点を曖昧にぼかして表す。 クライを「頃」に置き換え可。
⑤	程度の例示	程度や度合いを例によって表す。
⑥	低評価	クライの直前要素を低く評価する。 [cf. 落合(2017)]
⑦	嫌悪	「A クライなら B」の形をとり、クライの前部 A を嫌悪し、後部 B を選択する。 [cf. 落合(2017)]
⑧	限定	複数の候補の中から1つを限定する。 クライを限定の助動詞ダケに置き換え可。 [cf. 落合(2017)]
⑨	客観的事実による程度の高さの説明	クライの前部に客観的事実を述べ、クライの後部の事柄の程度の高さを表す。 クライを「ホド」に置き換え可。

		[cf. 森田(2007)]
⑩	主体の 感覚に よる程 度の高 さの説 明	クライの前部に主体的 感覚を述べ、クライの 後部の事柄の程度の高 さを表す。 クライをホドに置き換 え可。 [cf. 森田(2007)]

### 3. 代表的な例文と問題となりうる点

#### 3.1. 「①：同程度」について

「①：同程度」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (1) a. 毎日僕が起きるのと同じクライに父は仕事へと出かけていく。[落合 2017: 16, (19a)]

b. 私は太郎と同じクライの身長だ。

(1) のように、「同じクライ」の形をとるものは①：同程度」に分類される。

益岡・田窪(1992)や落合(2017)においては、「同程度」の用法は存在しておらず、「程度」としてまとめられている。しかし、「程度」の分類が広範にわたっており異なる意味を表すものが混ざっているという点から、より細分化し、「①：同程度」及び後述する各種分類を新たに設定することとした。

#### 3.2. 「②：疑問」について

「②：疑問」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (2) a. どれぐらい金が必要なのかね？  
(冗濫) [朱 2010: 100, (12)]

b. 集合時間は何時クライがいいですか。

(2) のように、クライが疑問詞に接続して

いる場合は、「②：疑問」に分類される。主な疑問詞としては、「何」、「どれ」、「いつ」、「どの」などが挙げられる。

#### 3.3. 「③：概数」について

「③：概数」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (3) a. この講義は、100人クライの生徒が受講している。  
b. 太郎は回転ずしを十皿くらい食べた。 [井島 2008: 45, (6b)]

(3) のように、クライの直前が数字+助数詞もしくは「倍」「半分」であり、かつ「約、だいたい、およそ」などのおおよその数を表す副詞を補える場合が、「③：概数」に分類される。ただし、クライを「頃」に置き換えられる場合には、後述する「④：時点の曖昧さ」に分類する。

#### 3.4. 「④：時点の曖昧さ」について

「④：時点の曖昧さ」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (4) a. 10時クライになったら、私のところに来て。  
b. 例年4月第1週クライに、ここの桜は満開になる。  
(5) a. 10時頃になったら、私のところに来て。  
b. 例年4月第1週頃に、ここの桜は満開になる。

(4) のように、クライが前部に示された時点を曖昧にぼかしている場合、「④：時点の曖昧さ」に分類される。この用法では、(5) のように、クライを「頃」に置き換えることが可能である。「③：概数」と類似しているが、対象が時期・時点であるという点で異なっている。

### 3.5. 「⑤：程度の例示」について

「⑤：程度の例示」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (6) [指示詞＋クライ] 屈まないと頭が壁にぶつかってしまう。兄は、そのクライ背が高いのだ。
- (7) [年齢を表す語＋クライ] 君は大学生クライに見える。
- (8) [クライ＋「の」＋スケール名詞] この店のハンバーグは、握りこぶしクライの大きさだ。
- (9) a. コップに、ひたひたになるクライまで水を注ぐ。  
b. さっと焼き目がつくぐらいで火を止めます。[丹波 1992: 97 (10a)]

(6)のように指示詞＋クライの形をとる場合、(7)のようにクライが大きさや年齢を表す語に後接している場合、(8)のようにクライに「大きさ」や「速さ」などのスケール名詞が後接している場合、また、それ以外でも(9)のように物事の程度や度合いを例を用いて説明している場合には、「⑤：程度の例示」に分類される。

### 3.6. 「⑥：低評価」について

「⑥：低評価」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (10) a. 少しクライ勉強しなさい。  
b. お米を炊くクライ私にもできません。[落合 2017: 15 (39a)]  
c. せめて、基本的なルールくらい守ってほしい。

[益岡・田窪 1992: 154, (84)]

(10)のように「少しクライ」の形をとる場合や、クライ直前の要素を明らかに低く評価している場合、「⑥：低評価」に分類する。この分類については、次節 3.7 でも

改めて説明する。

### 3.7. 「⑦：嫌悪」について

「⑦：嫌悪」の代表的な例文は、次に示す通りである。

- (11) a. 君が班長をするクライなら、僕が班長をする。  
b. 現金で支払うクライなら、何も買わない。  
c. 汗で濡れるクライなら雨に濡れるほうがまだ。[落合 2017 (40a)]

「⑦：嫌悪」は、「クライなら」、もしくは「クライだったら」という構文が用いられるが、「⑥低評価」に分類されるクライにも、(12)のように、同じ形で表れるものがある。

(12)[低評価] 五分遅れるクライなら許そう。

(13)[嫌悪] 現金で支払うクライなら、何も買わない。

しかし、(12)とは異なり(13)では、「現金で支払う」という行動を避けた上で、「何も買わない」というプロセスが生じている。このような、「AクライならB」といった形をとり、クライの前部を嫌悪した上で後部を選択するような場合に、「⑦：嫌悪」に分類する。落合(2017)では、「軽視」「嫌悪」「控えめ」という若干の意味の違いを認識していたものの、それらを「低評価」という一つの分類にまとめていた。我々の作成したガイドラインでは、落合の指摘する「低評価」を、「⑥：低評価」と「⑦：嫌悪」に分けたので、より細かい意味合いの判別が可能となる。

### 3.8. 「⑧：限定」について

「⑧：限定」の代表的な例文は、次に示すとおりである。

(14)a. 私にできることと言えば、せいぜいお祝いするくらいだ。

[星野 2014: 28 (19)]

b. 彼は今月仕事に追われていて、休めるのは明日クライだ。 [落合 2017: 18 (44a)]

先に示した ①～⑦の分類に当てはまらず、かつクライを「ダケ」に置き換え可能な場合のうち、クライの直前の要素を低く評価していない場合に、「⑧：限定」に分類される。なお、この際に低く評価していると判断される場合には、「⑥：低評価」に分類される。

### 3.9. 「⑨：客観的事実による程度の高さの説明」について

「⑨：客観的事実による程度の高さの説明」の代表的な例文は次の通りである。

(15)a. 雲一つないクライ晴れ渡った青空だ。

b. あの太郎が笑うクライだから、相当面白い話だったのだろう。

先に示した①～⑧の分類に当てはまらないもののなかで、クライを「ホド」と置き換え可能であり、クライの前部で客観的事実を提示し、クライの後部の事柄の程度の高さを表す場合に、「⑨：客観的事実による程度の高さの説明」に分類される。

### 3.10. 「⑩：主体の感覚による程度の高さの説明」について

「⑩：主体の感覚による程度の高さの説明」の代表的な例文は、次の通りである。

(16)a 感心するクライ仕事熱心な人だ。  
[落合 2017: 12, (36)]

b 君の気持は痛いくらいわかる。  
[須川 2006: 2, (7b)]

c 「目に入れても痛くない」と思う

クライ、我が子は可愛いものです。 [落合 2017: 11, (25a)]

先に示した①～⑧の分類に当てはまらないもののなかで、クライを「ホド」と置き換え可能であり、クライの前部で主体の感覚を提示し、クライの後部の事柄の程度を表す場合に、「⑩：主体の感覚による程度の高さの説明」に分類される。

「⑨：客観的事実による程度の高さの説明」との違いは、クライの前部に置かれているものが、第三者が何かをしたというような事実ではなく、あくまで話し手(あるいは書き手)がクライ後部の事象をどう受け止めるかという感覚や印象であるという点である。例えば、(15b)で「太郎が笑った」というのは事実であるが、(16a)で「感心するくらい」は誰かが感心していたという事実ではなく、主体自身が感心したことを表している。

## 4. アノテーション結果

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) から、クライを含んだ例文 500 件を抽出し、その中から、名詞の「位」と動詞の「くろう」の連用形「くらい」を除いた例文 498 件について、上記の分類ガイドラインにしたがって、実際にアノテーションを行った。

九州大学文学部の学生 2 人がそれぞれアノテーションを行い、その結果からカップ値を計算したところ、約 0.68 となった。アノテータ間でぶれの少ない、ある程度信頼性のあるガイドラインが作成できたことになる。今後、ずれの見られるところを中心に、更に検討を重ねていきたい。

## 5. 参考文献

- 井島正博 (2008) 「クライ・ホド・ナンカ・ナンカ・ナンテの機能と構造」, 『日本語学論集』, 4: 42-97.
- 落合里紗 (2017) 『副助詞クライの機能と用法』, 卒業論文, 九州大学.
- 朱武平 (2010) 「「くらい(ぐらい)」の分布と意味の構文論的考察」, 『千葉大学人文社会科学研究』, 20: 99-110, 千葉: 千葉大学大学院人文社会科学研究所.
- 須川友美 (2006) 『日本語の程度をあらわす助詞に) ついて: ホド・クライの意味と用法』, 卒業論文, 九州大学.
- 丹羽哲也 (1992) 「副助詞における程度と取り立て」, 『人文研究: 大阪市立大学大学院文学研究科紀要』, 44 (13): 1115-1150, 大阪: 大阪市立大学文学部.
- 星野佳之 (2014) 「クライの諸形式の整理: 「暫定抽出」の副助詞、名詞化辞、助動詞」, 『ノートルダム清心女子大学紀要. 外国語・外国文学編, 文化学編, 日本語・日本文学編』, 38 (1): 25-37, 岡山: ノートルダム清心女子大学文学部.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』, 東京: くろしお出版.
- 森田良行 (2007) 『助詞・助動詞の辞典』, 東京: 東京堂出版.